

経験確認シート(モニター評価)

<障害者支援機器モニター評価>

氏名	
----	--

記入日	年 月 日
-----	-------

これまでに経験されたことのある項目について、右側の欄にチェック（✓）をお願いします。

評価チームの組み方とその役割		実践した	よく理解した	理解した	受講した	わからない		
1 評価チームの組み方	全般	モニター評価の目的や意義を理解している						
		評価する機器を使用するユーザーの障害特性や生活状況をよく理解している						
		ユーザー、ユーザーの家族や評価者と連絡調整をする						
		支援機器の機能や構造を理解している						
		病院や施設など評価する場所でスケジュールや運用を計画できる						
		評価指標の意味や使い方を把握している						
		開発者に評価結果をわかりやすく説明し、アドバイスを伝える						
2 評価チームの役割と必要なスキル	開発者	対象となる支援機器の構造や用途、調整方法、材料、制御プログラムなどを理解する知識やスキルを有している						
		対象となる支援機器が使用される環境について理解している						
		フィードバックされたモニター評価結果を理解し、機器やシステムの調整や改善に反映する方法を提案することができる						
		対象となる支援機器のユーザーや必要に応じて設置調整をする人の基本的な状態を理解する知識を有している						
	評価者（医療従事者）	対象となるユーザー像や対象とするユーザーの心身機能特性や生活状況、禁忌やリスクなどを把握し、安全性を配慮した計画を立てることができる						
		利用場面や利用状況における安全性を確認するスキル、評価中に体調不良などが起こった場合の対応できる						
		評価項目や使用する評価指標の選択、評価の実施判断、安全な評価遂行ができる						
		機器やシステムの基本的な構造や動きを理解している						
		組織の指示系統に則った報告・連絡・相談ルートを把握している						
		モニター評価についての患者や家族、医療従事者との連絡調整ができる						
		3 コミュニケーション	障害のある人や家族との関わり方	機器を使ってどのような生活上の困難を解消したいのかを把握している				
				動作は自立しているのかを把握している				
				同居家族がいるのかを把握している				
		臨床の現場で働く人との関わり方	臨床家は、人の身体や障害、心身機能特性や禁忌などを把握している専門家、人の身体や疾病についての多くの知識を持っていることを理解している					
動作に不具合が出た場合には、姿勢や力のかかり方などの身体の点から解決策を考えることができる								
開発者とのかかわり方	機械の構造や機構、材料、動作原理などを把握している専門家、機械システムや制御メカニズムの知識を持っていることを理解している							
	動作に不具合が出た場合には、機械的、構造的な原因を特定し、インタフェースの設計や機器の改良につなげることができることを理解している							

4障害の理解		我が国の障害者基本法において、障害者は「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害（以下「障害」と総称する。）がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活又は社会生活に相当な制限を受ける状態にあるものをいう。」とされていることを理解している				
		古くは身体・精神の生物学的な機能不全に基づく医学的な考え方が主流でしたが、近年は“共生社会”という考え方の広まりから、障害を“生活のしづらさ”として捉える方向に変わってきていることを理解している				
		“ICFの生活機能モデル”では、“生活機能”と、それに影響する“背景因子”と“健康状態”の3つに整理して、それらが相互に関係しているものとして考えることを理解している				
		生活機能は、身体・精神の基本的な構造や機能を意味する「心身機能・構造」のレベルと、歩行などの移動動作や家事などの日常生活動作を意味する「活動」のレベル、就学や就労などの社会活動を意味する「参加」のレベルに整理されることを理解している				
	視覚障害	視力や視野に問題があって、日常生活に支障を来している状態であることを理解している				
		視覚障害には、視力が大変弱い、あるいはまったく見えないといった状態だけではなく、視野（見える範囲）が狭かったり、周囲の明るさや暗さによって大きく見え方が変わったりする状態もあることを理解している				
		文字は読めるのに障害物にぶつからずに歩けない方、障害物にぶつからずに歩けるのに文字は読めない方など、視覚障害の中にもさまざまなタイプがあることを理解している				
	聴覚障害	聴力に問題があって、周囲の音や相手の話声が聞こえない、あるいは聞こえにくいなど、日常生活に支障を来している状態であることを理解している				
		外見からは障害者とはわからないことが特徴の一つであり、突然後ろから声をかけられたりすると驚かれることや、後ろから近づいた車がクラクションを鳴らしても気づかず危険に晒されることなどがあることを理解している				
		生まれつき聴覚に障害のある方は、自身の声も聞こえないために音声での会話が難しく、手話などを介してコミュニケーションを取ることを理解している				
認知障害	認知機能は人が物事を理解し、判断するなどの知的機能を意味することを理解している					
	認知障害は、脳卒中やアルツハイマー病などの脳の病変が原因となってその機能が低下し、日常生活に支障を来している状態のことであることを理解している					
	物忘れのような記憶の障害が代表的ですが、理解や判断、言語、知覚、学習などのさまざまな機能の障害があり、一見してわからないケースもあることを理解している					
肢体不自由	身体の動きに関連する上肢や下肢、体幹の機能の一部が病気やけがなどで損なわれ、日常生活に支障を来した状態であることを理解している					
	歩行などの基本動作や家事などの生活動作が困難となり、重度なケースでは座位姿勢を保つことさえ難しくなることを理解している					
切断	交通事故や労働災害などによるけがなどが原因となり、手や足の一部が身体から切り離され、日常生活に支障を来した状態であることを理解している					
	切断された部位によって状況は異なり、上肢の切断では特に生活動作が、下肢の切断では歩行などの移動動作が制限されるなどして、日常生活に支障を来すことを理解している					
	義肢（義手や義足）を用いることが多く、その有無や適合の度合いによって障害の程度が変わることを理解している					
	ICFの生活機能モデルにも示されているように、これらの障害は対象者の健康状態や、住まいなどの環境因子によって大きく影響されることを理解している					